

令和 6年 5月16日

魚沼市長 内 田 幹 夫 様

魚沼市室内温水プール建設要望書

魚沼市民温水プールを造る会
代表 山田 たつ子

魚沼市室内温水プール建設については、令和3年6月23日に要望書を提出し、さらに令和4年5月27日に、9, 213筆の署名簿を添えて2回目の要望書を提出しました。

魚沼市議会での一般質問に対し「合併特例債事業に集中しているため、プール建設の優先順位は低い。また建設には20～40億円必要である。」との答弁がなされています。

新潟県内で魚沼市を除いた19市に、公設あるいは民間の温水プール施設があり、子供たちの泳力向上、市民の健康維持に活用されています。プール建設には、検討から建設までかなりの期間を要します。建設検討の開始が遅くなればなるほど、魚沼市に温水プールがない空白期間は長くなり、その間に多くの子供たちは水泳を学ぶ時期を逸してしまい、高齢者はますます高齢化していきます。

地球温暖化が急激に進む中、また雪深く冬の長い魚沼市で、健康に過ごせるよう、年間を通じて全世代が安全に利用できる室内温水プールの建設を熱望しています。

一日も早い温水プール建設に向けて、下記のことを要望します。

要望事項

- 1 早急に有識者及び利活用者等を含めた「温水プール建設検討委員会」を設置し、別紙「魚沼市室内温水プール建設提案書」を参考に建設に向けた取り組みを開始してください。
- 2 要望書及び別紙「魚沼市室内温水プール建設提案書」を市長はじめ担当部署に説明する機会を設けてください。

以上、よろしく申し上げます。

【別紙】

魚沼市室内温水プール建設提案書

1 現状と課題

- 1) 令和5年3月末で、入広瀬寿和温泉プールが閉鎖され、新潟県内20市の中で、公設及び民営の室内温水プールが一カ所も無い市は魚沼市のみとなった。子供たちは泳力向上のため、大人は健康やリハビリのため、近隣市の温水プールまで通わざるを得ない。しかし、高齢者は遠隔地までの運転に不安を感じ、多くがやめてしまった。子供を通わせる保護者にとっても、時間、費用ともに大きな負担となっている。
- 2) 近年の猛暑により、屋外設置の学校プールでの熱中症リスクが高まり、水泳授業に支障が出ている。また夏季休業中のプール開放の回数も減っていて、子供たちが泳ぎを覚える機会が激減している。昨年の夏季休業中のプール開放は、小学校8校中、1回実施1校、6回実施1校、未実施6校となっている。全国的に、学校プールの改修費用、管理コスト、教職員の負担軽減のため、学校利用を前提とした公営プールの整備や、スイミングスクールの利用など、「学校プール集約化」の取り組みが進んでいる。
- 3) 冬が長い魚沼市では、降雪もあり、室外での運動が難しい。高齢者は運動不足と人と交流する機会の減少から、心身ともにフレイルに陥りやすい。2030年には、魚沼市人口の約半分は高齢者になると言われている。
- 4) 年間を通して、冷暖房設備が完備され、安全に運動できる施設が少ない。
- 5) 魚沼市スポーツ推進審議会から、「市民温水プール建設検討会設置に関する提言書」が提出されている。【資料1：スポーツ審議会提言書】を参照)
- 6) 野球場や体育館、グラウンド等の体育施設は、市民が利用できる施設が市内に整備されているが、生涯スポーツとしての水泳については年間利用できる施設が整備されていない。
- 7) 「第2次魚沼市スポーツ推進計画」に平成26年末就学児童保護者アンケートの結果が記載されているが、その中で保護者が子どもたちに習わせたいスポーツの第一位は、水泳で32.1%、次いでスキー・スノーボードが20.9%となっている。

2 目的

- 1) これから迎える超高齢化社会に向け、室内温水プールを活用した腰痛・膝痛・肩痛・リハビリ等に対応した水中運動及び水泳プログラムを提供し、市民の健康増進と高齢者の健康寿命延伸をはかり、医療・介護費を削減する。【資料2：十日町ひだまりプール水中体操教室参加者の様子】を参照)
- 2) 室内温水プール及び専門指導者を活用し、一年を通じ天候に左右されない環境の中で、子供たちの健やかな成長と泳力向上を図る。また、学校プールの集約化により経費節減を図り、学校プール管理や水泳指導における教職員の負担を軽減する。
- 3) 障がい者の諸機能の改善やリハビリ、泳力向上等を図ることで、障がい者の社会参加を促し、障がいのある人、ない人の相互理解を深め、共生社会の形成を図る。
- 4) 多くの市民が通いやすい地域に、生涯スポーツの場として、年間を通じ、全世代が安全に利用できるユニバーサルデザイン設計の室内温水プールを建設し、市民が水に親しむ環境と交流の場を提供する。
- 5) ごみ焼却処理の過程から可能な限りエネルギーを回収して得られる熱や電気及び太陽光エネルギー等を積極的に活用した施設を作り、地球温暖化の原因である二酸化炭素削減とランニングコストの削減を図る。

3 室内温水プールの具体的内容

1) 施設概要

施設	区分	諸室・機能
屋内温水プール	プールエリア	<p>メインプール (25m×7 コース) 水深 1.1m (入水スロープ有り)</p> <p>(日本水泳連盟公認プールにこだわらない。)</p> <p>サブプール ((16m×4 コース) 幼児・低学年用 (入水スロープ))</p> <p>プールサイド (学校等の団体使用可能スペース有り)</p> <p>給水・うがい設備</p> <p>採暖室又は温浴施設 (ジャグジースパ)</p> <p>男女別トイレ・多目的トイレ</p> <p>男女別シャワー室 (団体使用)・個室シャワー室</p> <p>男女別更衣室・ロッカールーム</p> <p>プールサイド監視台</p> <p>器具庫</p> <p>機械室</p> <p>監視室兼救護室</p> <p>*要検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児・低学年用サブプールを可動式床 ・コース一部を飛込練習可能コース ・洗体槽設置 ・ウォータースライダー設置
	共用エリア	<p>受付・事務室</p> <p>観覧席</p> <p>多目的ルーム (兼スタジオ)</p> <p>多目的トイレ</p> <p>コミュニティスペース</p> <p>エントランス</p> <p>廊下・階段</p> <p>*要検討事項 ・ジム機能の設置</p>
	管理エリア	<p>機械室</p> <p>電気室</p> <p>倉庫</p> <p>職員用休憩室・更衣室</p> <p>*要検討事項 ・職員用会議室等</p>
	外構等	<p>駐輪場</p> <p>駐車場</p> <p>消雪設備</p>

【参考施設】

- ・糸魚川室内温水プール「ハピネス」 2020年4月オープン 人口 41,010人
 25m×8 コース水深 1,1m 16m×4 コース 可動床
 観覧スペース 多目的室
 延べ床面積 2,213 m² (671 坪)

建設費用 9億2,800万円 熱源 ごみ焼却排熱(48万トン)
目的 市民の健康づくりの推進と運動習慣の定着

- ・十日町ひだまりプール 2004年7月オープン 人口50,720人
25m×5コース水深1.1m 子どもプール(小) 温泉槽(千年の湯源泉)
水中運動が主
建設費用 6億円(うち2億円が国の補助金)
医療費、介護保険の削減
プール利用している人(月) 2,914円
プール利用していない人(月) 7,933円 差額 -5,019円
目的 寝たきり老人をつくらない(旧川西町)
- ・長野県木曾町温水プール 2017年7月オープン 人口10,450人
25m×5コース 歩行用プール 低学年プール トレーニングジム 多目的ルーム
建設費用 7億3,939万円(学校交付金1億1,050万円)
学校授業に使用している。
床面積 494坪 敷地面積 678坪
目的 生涯スポーツ 健康増進の拠点

2) 建設地

①市有地に建設する。

- 例として
- ・現ごみ焼却場周辺地域
 - ・旧井口小学校跡地利用
 - ・水の郷工業団地
 - ・市民より寄贈された土地

3) 建設費用

①建設費用は、近年建設された温水プールの実績から、12億円～13億円を想定している。ただ、建設するプールの大きさや設備、建設地等によって大きく異なってくることと、近年の建設資材の高騰から、単純に今までの他市での実績等から予想することは困難なため、プール施設の概要や建設地を仮定し、見積書を徴し、建設費用を想定する必要がある。

②建設費は国からの補助金や過疎債を活用するとともに、他市町村で広く活用されている「ふるナビクラウドファンディング」等を活用するなどの方法も検討する必要がある。

【建設費参考施設】

- ・2018・2019年度に建設された糸魚川室内温水プールが9億2,800万円で建設
(内訳：プール6億円、機械設備2億7,000万円、電気設備5,800万円)

【ふるナビ活用参考例】

- ・新潟県燕市「子どもたちの健やかな成長を支援する全天候型の遊戯施設を整備します」
目標金額 35億円のところ、令和5年11月現在32億5千万円達成
- ・新潟県燕市「子どもから高齢者までが集うスポーツ施設を整備します」
目標金額 50億円のところ、48億8千9百万円達成(受付終了)

4) 運 営

①運営方法・・・公設・民営とする。管理運営方法は下記のとおり、準備期間の中で検討する。

- 施設及び機械の管理運営は、魚沼市から管理委託費を支出し、地元業者等を中心に委託業者を選定し委託する。

- スイミング等の練習プログラム及び指導者等については、「エンジョイスポーツ魚沼」「十日町体力づくり支援センタープール」「小千谷スイミングセンター」等に、委託料を市が負担する条件で、開業までの間（3年～5年間）に準備し、運営することが可能か確認する。（小千谷スイミングセンターは民間経営であるが、スイミングアカデミー撤退後、十日町体力づくり支援センターから練習プログラム等の提供を受けて開業した経緯があることと、魚沼市民84人が会員として利用しているため。）

併せて県内等でスイミングスクールを運営している企業からも情報収集を行う。

②経費負担の事例

市 経 費 負 担	水泳授業実施のための送迎用車両の配備と運行（スクールバス等の活用）
	小中特別支援校のインストラクターによる水泳指導（午前）
	小中高校の課外・部活動の受け入れと必要によりインストラクターによる指導
	保育園・幼稚園児のインストラクターによる水慣れ教室、
	医師の指示によって行われる健康・リハビリのための水中運動と必要によりインストラクターによる指導
利 用 者 負 担	送迎用車両の配備と運行
	インストラクターによる水泳・水中運動の指導（午後・夜間）
	インストラクターによる幼児（保護者同伴）の水慣れ教室等の指導
	インストラクターによる障がい者の水中運動・水泳教室の指導

【参考施設】

- 糸魚川室内温水プール「ハピネス」
指定管理者 3社合同企業体（新潟ビルサービス、コナミ、機械メンテナンス市内業者）
指定管理料 年間6,000万円

- 十日町ひだまりプール
指定管理者 第三セクター(株)まちづくり川西 教室運営 (有) エリアドウ
委託料 年間2,520万円 (2,010年現在)
*(株)まちづくり川西はプール以外に公園・温泉管理、学校給食についても委託を受けている。

- 長野県木曾町温水プール
指定管理者 福祉エンタープライズ
委託料 年間4,000万円 林業が盛んな地域のため、チップは林業課が提供。太陽光も利用し維持管理費の低減を図っている。

4 スケジュール

- ①令和6年度中にプール建設検討委員会を設置し、設置場所、施設内容、運営方法等について検討を開始する。
 - ・検討及び建設には、4～5年間の期間を要するため、早急に検討委員を選定し、検討を始める必要がある。
 - ・検討委員は、医療・スポーツ・学校等各団体の有識者、利活用予定者、行政機関担当者などで構成する。
- ②令和8年度からプール建設用地確保と整備を行い、プールの建設を開始する。
- ③令和11年度から室内温水プールの供用を開始する。
- ④新焼却場が現在地の隣接地に建設され、令和13年度から稼働することが確定した。焼却場排熱を温水プールの熱源として利用する場合、プール供用開始が13年度以降となってしまう。魚沼市のプール空白期間をできるだけ短くするために、現焼却施設に集熱装置を設置し、その排熱を利用してプール供用を前倒しすることができるかについても併せて検討する。

【参考施設】

十日町ひだまりプールでは、どんなプールにするか、町民に意見を聞き、2年間をかけ、検討委員会で検討を行った。設計は複数の業者を競わせるコンペ方式で、設計者を選定した。

5 収支計画を立てる上での留意事項

- ①施設管理委託料を市費で予算措置を行うとともに、学校プール（湯之谷小学校プールを除く）及び他の市営プールの維持管理を終了する。
- ②一般利用者からは、年間利用券、会員券、会費及び一回ごとの利用料金などを徴収し、赤字にならないようにする。
- ③公設であり、市民の生涯スポーツの施設でもあるので、近隣の公共プール施設の利用料金などを考慮し、市民の過重負担にならないよう料金を設定して徴収する。

6 その他

- ・湯之谷小学校プールについては、新しい施設のため、今後も利用できるよう使用方法を検討する。（夏季休業中の市民への開放や学校単位での水泳大会の実施等に活用）

【資料1:スポーツ審議会提言書】

魚沼市長 内 田 幹 夫 様

市民温水プール建設検討会設置に関する提言書

提言 魚沼市における市民温水プール建設に向けた検討会を設置するよう下記の理由により提言します。

- 理由 (1) 市内中心部にあった民間の温水プール施設が閉鎖解体され、同施設に通っていた子ども・高齢者が小千谷市や南魚沼市まで通わなければならない。または、水泳を続けることを諦めざるを得ない状況になったこと。
- (2) 市内に唯一ある寿和温泉温水プールは老朽化していること、また、市内中心部から20 kmも離れ、子どもや高齢者が通うのは不便であること。
- (3) 市内小・中学校のプールも老朽化し使用できなくなっている所も多く、また最近の猛暑でプール授業での熱中症リスクが高くなることで、小中学校における水泳授業支障が出ていること。そして全国的にも学校プールの改築更新費用、施設管理コスト負担を踏まえ、学校利用を前提とした公営プールを整備することで学校プールの集約化を図る取り組みを進んでいること。
- (4) 高齢化がすすんだ本市においては介護予防事業は必須の事業であり、温水プール利用による介護予防運動は全国で成果を上げており、本市でも取り組みべきであること。
- (5) 子どもに習わせたいスポーツ種目の第一位が水泳であり、泳げる能力を身につけることは生命を守る力をつけるためにも重要であり、子育て世代の要望に添うことが必要であること。

以上の理由により子どもの健全育成から介護予防まで非常に有益である温水プールを市民が利用しやすい場所に建設することが望ましいと考え、「魚沼市市民温水プール建設検討会」を設置することを提言致します。

魚沼市スポーツ推進審議会
会長 柳瀬 良平

【資料2 十日町ひだまりプール水中体操教室参加者の様子から】

人工透析は延期に（77歳・男性）

ひだまりプールオープンの平成16年7月から参加。入会時より糖尿病の既往があり1日2回のインスリン投与を続けていた。平成17年秋には人工透析が必要と医師から言われ、その準備を整えた。ところが18年1月透析開始直前の検査に行くと状態が好転。血糖値も落ち着いてきていたため、ひとまず透析は延期ということになった。

「先生、奇跡が起こったよ。」

筋肉を動かすことがインスリンの代わりになり、定期的な運動によって血糖値も下がるようになったのだろう。以来、平成19年6月現在、いまだ人工透析の必要はなく、インスリンも以前に比べ朝夕2単位ずつ減った。

「食事に気を遣ってくれた家族と、このプールに来ているおかげ」と話している。

1年半前「透析が始まったら長い旅行には行けないなあ。」と話していた方が、この6月には町老人会の総務部長として鳥取砂丘への旅行を切り盛りし、元気に長旅を終えてきた。

HbA1c 9.8 → 5.4(正常値) . 腹囲15cm減（63歳・男性）

仕事の関係で夜の席も多く、気がついたら血糖レベルを示すHbA1cが9.8にも達し、2週間の入院が必要にまでなった。

入院直前の18年5月に水中体操教室に入会。坐骨神経痛の痛みがひどくなったことがきっかけだった。退院後、本格的に運動と食事をコントロールし始める。まず週1回の教室でしっかりと筋肉づくり。体が筋肉質に変わることによって脂肪が燃焼しやすくなり、筋肉を動かすこと自体が血糖値を下げるインスリンの代わりとして働く。

さらに自主トレとしてプールでの歩行も開始。1年中ほとんど休みなく毎日1時間ほどプールで歩いている。整体や医療機関受診との相乗効果も出て坐骨神経痛の痛みはまもなく楽になり、糖尿病もHbA1cが5.4と正常値に、腹囲は15cmも減少した。(92cm→77cm)

好きなお酒がたっぷり飲めないのは寂しいが、健康が何より。今年の河岸段丘ウォークでも25kmを完歩。姿勢はすっきり、ずっと若返った姿で今日もプールに通う。



「健康であることが仕事」3年間で693日プールへ（74歳・男性）

脳梗塞を患い、約40日の闘病生活。歩くことも辛く、毎日書く日記の文字も判読できないほどだった。

平成15年から水中体操教室に参加以来、週1回の教室を継続している。今では書く文字もしっかりし、歩く姿勢など外観ではまったく後遺症を感じさせない。

ひだまりプールができてからは、教室プラス自主トレで片道10分自転車をこいでプールへ通う毎日。「近くに施設ができたから、こうして通うことができる。」

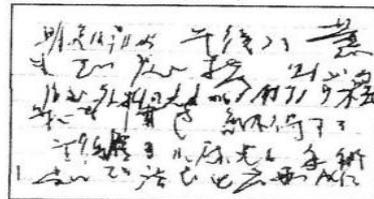
この3年(約1050日)の間に、693日プールに通った。(H19年6月16日現在)

「プールのおかげ。これが俺の仕事と思っている。」

「病んでこそ知る『健康である幸せ』。目が覚めると便所へ行けたこと。箸でご飯が食べられたこと。夜は安眠できたこと。ありがたい。」ご本人の言葉である。

(右)H13年(脳梗塞後)の筆跡

(下)H16年の筆跡



病も、その人の考え方で余生でなく、生涯現役として健康活動ができる人生へ。またその過程を筆にも残すに褒めてくれてありがたと思う。